日光街道400年の「むかし」と「いま」を同時に歩こう

徳川家康が日光東照宮に葬られた元和3（1617）年に街道・宿場がともに整備されたという日光街道。この日光街道は宇都宮までは奥州街道と重なり、参勤交代をする奥州各藩の大名行列、また一般の旅人も行き来した道で、宇都宮からは4つの宿場を経て日光に到着します。元禄の昔、芭蕉が奥の細道の旅路の一部として辿った日光街道のうち、栃木の宿場を自らの足で歩いて、昔の面影を偲びつつ、現在の姿もまた見つめ直してみませんか。

宿場マップについて

日光街道には江戸千住を最初の宿場として日光の4石宿まで21の宿駅があり、そのうち宇都宮までの17宿は奥州道と重なっていました。このマップでは、この21宿のうち栃木市内の宿本陣から4石宿までの12宿を中心に8頁にわけて掲載します。これらの宿場の周辺には旅人や宿泊して繁盛した当時の名残りをとどめる様々な名所・史跡が残っています。また、今に至るまで行われている行事もあります。さらに歴中の自然や見どころなども紹介しております。このマップを活用して、歩きながら、日光街道の「ひめ」と「いま」を対照しみてください。

地図の凡例

- 旧日光街道
- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道
- 有料道路
- 名所・史跡
- トイレ
- 公園
- 駐車場
- 杉並木
- その他のポイント
- 案内表示板
- 観光案内所
- 官公庁

地図は2万5千分の1国土地理院発行の地図を使用しました。ただし2万5千分の1国土地理院発行の地図には掲載されていない道路・建物・施設などは、2万5千分の1国土地理院発行の地図を参考にしました。

世界遺産登録

1999年12月2日にモロッコで開かれたユネスコ総会で、日光街道の終点ともいうべき日光山内地区の2社1寺の建造物群と周囲の文化的景観が、世界遺産に登録されました。

登録の内容

◆名称
・日光の社寺

◆世界遺産条約上の区分
＊文化遺産

◆登録資産
＊建造物群
・日光二荒山神社（にっこうふたらさんじんじゃ）
・日光東照宮（にっこうとうしょうぐう）
・日光輪王寺（にっこうりんのうじ）

＊遺　跡（文化的景観）
・日光山内の建造物群周辺の山林地域

◆登録の範囲

＊登録資産の面積	50.8ha
＊緩衝地帯の面積	373.2ha
＊合　計	424.0ha

＊緩衝地帯とは、指定された世界遺産の保護のために、その遺産の周囲に設けられる利用制限区域です。

「日光の社寺」世界遺産区域には、国宝が5棟、重要文化財が94棟という、歴史的に価値のある建造物があります。

この中で、国宝と重要文化財に指定されている建築物の数は次の通りです。

＊日光二荒山神社 ── 23棟が重要文化財
＊日光東照宮 ── 8棟が国宝、34棟が重要文化財
＊日光輪王寺 ── 1棟が国宝、37棟が重要文化財　【合計 103棟】

1 滝尾神社

弘仁11（820）年に、弘法大師空海が神霊の降下を祈願し、女体の姿を見て建立したと伝えられる神社で、二荒山神社の別宮です。参道の途中にあるこの鳥居（通だらしの鳥居）や、鐘楼は国宝とされ人気があります。

2 大猷院霊廟

徳川3代将軍家光公の霊廟。敬愛してやまなかった祖父家康公が祀られた東照宮に倣う造りとなっており、東照宮に比べて落ち着いた色彩・装飾が施されています。

3 日光二荒山神社

男体山（二荒山）を御神体とする社大社格付を持つ神社です。8世紀末に、勝道上人が開山してから日光山信仰の中心となってきました。

4 日光東照宮

徳川家康公を祀るために、2代将軍秀忠公が元和3（1617）年に創建、その後、3代将軍家光公が1年5ヶ月かけて大改修をし、完成させました。この建築に かかった費用は56万8千両といわれ、現在のお金にして400億円といわれています。開眼供養をはじめとして42の建物はすべて、国宝並びに重要文化財の指定を受けています。

5 日光山輪王寺（三仏堂）

日光山内の勝道上人が明星天子を祀ったのに始まり、西暦17（1640）年に、現在の場所に移転しました。今に残るお堂は元禄5（1692）年の建立です。

6 勝道上人銅像

岩船山頂の銅像で有名な新興彫刻氏作の銅像で、日光市市制施行記念として建立され、昭和30年4月1日に除幕式を挙行しました。

7 神橋

これより日光山内各示す橋です。昔、二荒山を目指していた勝道上人が、この川に辿り着けなかったとき、神仏に祈ったところ、深砂大王が現れ、赤い蛇と青い蛇を従えて渡してくれたといいます。現在、平成の大修理が行われています。

8 陣石

9 虚空蔵尊

日光開山の勝道上人が明星天子を祀ったのに始まり、西暦17（1640）年に、現在の場所に移転しました。今に残るお堂は元禄5（1692）年の建立です。

10 筋違橋跡の地蔵尊

11 尾立岩

日光街道の西側に迫るような岩場の姿。大昔日光山の本宮権現が蛇の姿となって大谷川を渡ってこの岩の上に乗ったといわれます。権現堂中に立てた、それがあるのいわれと伝えられています。

12 生岡神社

弘法大師が厳滝を絶対、大日如来をおさつりしたといわれています。子供にとの言い伝えられ、いわゆる「上野の強飯式」は、同社に古来より伝わる神事です。

13 薬師堂

境内に置いてある石造りの梵塔が列名です。言い伝えでは、明和5（1768）年、村人が石の梵塔を奉納しようとしましたが、それは縦横が逆ずさたために壊れてしまい、以来、放置されてきたということです。

日光山輪王寺（三仏堂）

日光杉並木街道

370年の歴史を誇る杉並木

日光といえば杉並木とすぐさま言われるほど、日光街道の杉並木は有名です。街道筋をずっと歩いていくと、文字通り、道の両側に天にまでそびえる緑のカーテンがあるような気がします

日光杉並木は、日光・例幣使・会津西の3つの街道あわせて全長37kmの両側にそびえ立ち、その杉並木数は15,000本弱といわれています。

この杉並木をつくりあげたのは、徳川家康の忠臣松平正綱で、20年余の年月をかけて20万本あまりの杉を植え、家康の33回忌にあたる寛安元（1648）年に日光東照宮に寄進しました。

植え始められてから約370年、樹高30mにもなった杉の木は、日光街道の東しか の様々な出来事を見つめつつ、将来へと受け継がれていくことでしょう。

現在、日本で唯一、特別史跡と特別天然記念物の二重指定を受けています。

また、平成4（1992）年には、ギネスブックは世界一長い並木道として認定しました。